

運動領域の教材に対する理解を深める

保健体育講座・糸岡 夕里

1. 「保健体育学実習」の概要

「保健体育学実習」の授業は、中等教育コース保健体育専攻および初等教育コース小学校サブコースの2回生（10名）を対象として開講した授業科目である。なお、この授業は感染予防対策を徹底し、毎週60分の対面授業を実施し、それ以外の時間はMoodleを活用し授業を実施した。

授業の前半は、私が教材を紹介し、各種運動領域の系統性や子どもをつまづきについて理解することを目的とした。

授業の後半は、受講学生を3グループに分け、各グループで教材を実践することとした。

【授業の目的】

本授業の目的は、体育授業における各種運動領域の教材の実践を通して、運動の系統性や子どもをつまづきに対する理解を深めること、また教材の工夫や効果的・効率的な指導法について習得することである。

【授業の到達目標】

- (1) 体育授業における各種運動領域の系統性について理解する。
- (2) 子どもをつまづきについて理解する。
- (3) 教材の工夫や効果的・効率的な指導法について習得する。

2. 「保健体育学実習」の授業内容

前半は主に球技系の領域を対象とし、ゴール型、ネット型、ベースボール型とそれぞれのゲームを実践し（対面授業60分）、発達段階を踏まえたゲームの発展性、学習指導要領に示された内容について理解を深めた（モデルを活用した遠隔非同期型授業）。

後半は、受講生を3グループに分け、各グループで考えた教材を実践した。各グループが実践した教材は以下の通りであった。

30分程度の教材を実践後、対面で簡単なふり返り20分程度を行った。ふり返りでは、教

材で工夫されていた点や、指導でわかりづらかった点、発達段階をふまえた教材の難易度、さらにより教材にするための具体的な改善案など、その場で学生同士で意見交換して欲しい内容を設定し、その後、モデルを活用してそれらの内容についてさらなる理解を深めることができるような課題を設定した。

日程	対象学年	領域（内容）
1/24	小学1・2年	走・跳の運動遊び （折り返し運動）
1/31	小学5・6年	ゲーム・ゴール型 （サッカー）
2/1	中学1・2年	球技・ゴール型 （バスケットボール）

3. 授業評価

以下は、学生のDPに対する調査結果である（回答者7名、回答率70%）。4つの観点に対し、いずれも肯定的な評価が得られたが、教材を実践するということが授業の大部分であったためか、技能や思考・判断・表現については、「ある程度そう思う」といった回答が目立つ。教材の実践という経験を通してや、Moodleを活用することによって、各種運動領域の系統性や子どもをつまづきについての知識・理解は充分満足できる授業であったことが推察できるが、今後は、教材の工夫や効果的・効率的な指導法を身に付けるという技能をいかに保証していくかが課題である。

